



体験版


その花びらにくちづけを

あまくてほしくてとろけるちゅう

ふぐり屋



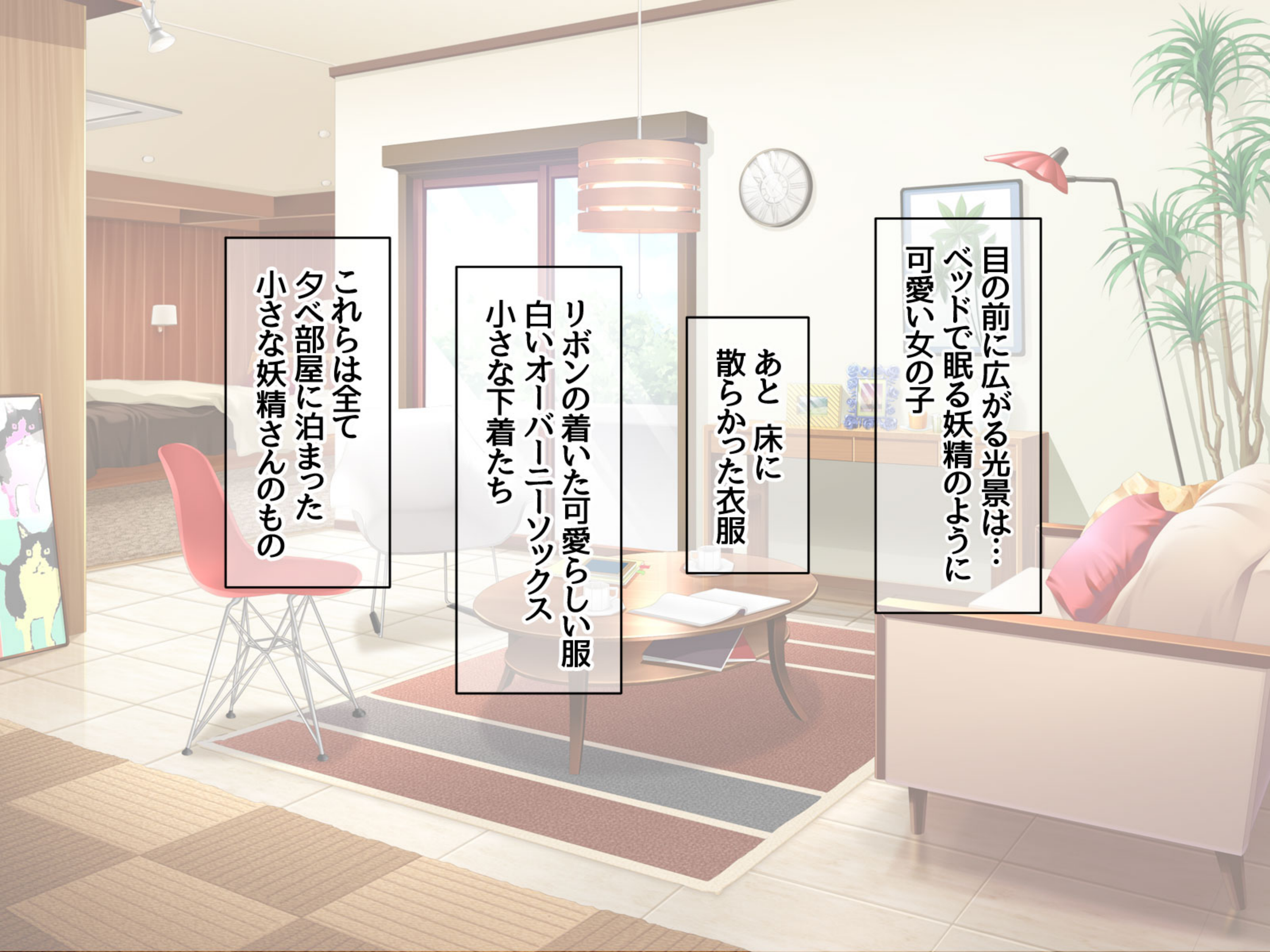




ひとつしかない
南向きの窓を開けると
新緑の香りが入ってくる

ワンルームの窓から見える
空は四角くビルの形に
切り取られているけれど

陽射しは普通の空と
変わらずに
差し込んで明るい



これらは全て
夕べ部屋に泊まった
小さな妖精さんのもの

リボンの着いた可愛い服
白いオーバーニーソックス
小さな下着たち

あと床に
散らかった衣服

目の前に広がる光景は…
ベッドで眠る妖精のように
可愛い女の子

もう
瑠奈ったら...

脱ぎ散らかされた
衣服を畳み
瑠奈を揺り起こす

起きて瑠奈
朝よ?

……うー



毛布をたぐり寄せて
被る瑠奈

起っつらぬの
眠るつらぬの

朝ご飯を作ったから
一緒に食べましょう?!

リビングはイヤよ



ピーマンも
入ってないわよ

こないだもそう言っ
てスープに入れたでしよ

う…

あれくらいの量は
ミキサーにかけてたつて
わかるわ



ババレてたの…？

あたり前じゃない

嫌いな食べ物は何いや
味に敏感っていうけど
本当にそうなのね

瑠奈の保護者代わりとして
栄養に気を遣いたかったの
だけど…難しいわー



でもあのとき残さず
飲んでくれたわよね

ああれは…

キレイなものを騙して
食べさせようとするなんて
せんせいは悪の手先だった
んだと思ったけど—

よく考えたら
わたしのせんせいは
そんなんじゃないし

ねえさまにわたしの
保護者を頼まれたからには
好き嫌いをなくそうとか
栄養に気を遣おうとか
思っただらうし

だから仕方なく
飲んであげたの
…せんせいのくせに
そんな事もわからないの？

ごめんなさい…

…寝る



ええ？

寝る今日はこのまま
夕方まで寝てやるわ

そんな事したら
夜に目が冴えて
眠れなくなっちゃうわよ？

彼女の目が
『それもそうね』と
言っている気がする

.....

だからまずは
起きて服を着てから
ご飯を食べましょう??

でも、肌でぬくぬく
していたいの

この毛布
せんせいのにおいが
するんだもん...♡

きゅんとして
毛布を抱きしめる

はうっ！

ずきゅ

きゅ

なんて擬音が頭の中に
響きそうなくらい
心臓が高鳴った

なんて可愛いのか？

いけないわ
貴子しつかりしなさい
あなたは瑠奈の担任なのよ？

裸のままベッドで朝を
迎えた教え子にこれ以上
ときめいてどうするの

…既にいろいろと
手遅れだけでも

せんせい

ブラがまだ 必要ないくらいの
ふくらみと 小さな桜色の蕾は
妖精のように美しいとしか
言いようがない

夕べその場所に
ふれた事を思い出すと
顔が熱くなってしまう

たぐり寄せていた
毛布を離すと
はらりと胸がはだける

な何？

瑠奈は小悪魔的な
笑みを浮かべて
私に両手を伸ばしてくる

キスしなさい

えええ？

せんせいが
キスしてくれたら
目が覚めるわ



そそそんな事を
しなくても顔を洗えば
目が覚めるわよ

キス…
してくれないの？

軽く首を傾げて
寂しそうな声を出した

せんせい
はやく♡



少し甘い声で
追い打ちをかけてきた

もうダメ…
さようなら
私の理性…

し 仕方のない子ね

ベッドに手を付くと
ぎしっとマットが軋んだ

綺麗な瑠奈…
間近で彼女を見るのは
まだ少し恥ずかしくて
目を伏せてしまう

ちやんと見てキスして…
唇以外にしても
起きないわよ？

はい…

はやくはやく



でも
でも…
好き

うううう

溜奈に振り回されてる
自覚があるわ

恥ずかしい事を言われたり
混乱させられたり
理性が壊れるくらいに
可愛く思えたり

花の蕾のような唇に
そっと自分の唇を重ねた

んん…♡

あま

んん

んん

んん



瑠奈とのキスは
私の心と体を
とろけさせる

せんせい…
ちゅっ♡

ちゅっ♡

んっ

んっ

瑠奈…♡

じんわりと
体が熱くなってくる



んっ♡

唇を離すと 瑠奈が
裸のまま抱きつくように
キスをしてきた

んっ!?

ズッ♡
ズッ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

彼女に体重をかけられて
腕だけで支えていた体
がくつと下がる

る 瑠奈!?
ん…んう
んちゅ…ちゅ♡

足りない…
もっと大人のがいい

へっ?

ズッ♡

ちゅ♡

んっ

んっ

間抜けに口を開けると
彼女の舌先が
口腔に入ってくる

んふうん…
ちゅるる

もつと舌だして…
れるうう…

朝からこんな
あん…♡ちゅ♡
ちゅるる…れる♡

促されるように
舌を出すとねっとりした
瑠奈の舌が舐めてくる

んんん

くちゅ♡

ちゅ♡

んん

あたたかくて
柔らかくて 甘い汁が
口の中いっぱい広がった

気持ちが良くて
頭がぼろっとしてくる

んんん

くちゅくちゅ

ちゅちゅ

んん

る 瑠奈を起こしに
来たんだから
もつとしつかり
しなきやダメよ!?

でも
気持ちいい…♡

せんせい…

ん…んう…
ふはあ

なあに？

キスだけじゃ
ガマンできなく
なってきた♡



えええ？

朝食の前に…
しましょ？

瑠奈が私の体を
ベッドに引き込む



ちよちよつと
待ったー！

してくれなきや
起きない



キスすれば起きるって
約束したじゃないっ

さあ そんな約束
したかしら？

ああ またそうやって
すつとぼける

唯我独尊な瑠奈は
自分に都合の悪いことなんて
平気で忘れてしまえるのだ

でもスープが
冷めちゃうし…

そんなの
温めなおせば
いいじゃない

規則正しい生活は
健康への第二歩よ！

心の健康には
せんせいと愛を
確かめる事が必要だわ



う…また
そんな理屈を…

それともせんせいは
こんなわたしに
お願いしてるのに
嫌だつて言うの？

そ…そういうことじゃなくて
私はただお腹が空いたままじゃ
いろいろ楽しくないと思って

そうかしら？…こんなに
満たされない気分じゃ
食事の美味しさも
半減してしまうと思うの

それに 適度に運動した方が
血の巡りも良くなるし
なによりお腹も空いてくるわよ

そう 空腹は
最高のスパイスってやつ

は
はあ…



なによりしつかり
愛を確かめ合った後に
食べるせんせいの手料理は…

それこそ
どんなスパイスよりも
一流レストランの料理よりも
素晴らしいと思うわ！



宣言されてしまった

そう思わないかしら？
せんせい

そう言つて
瑠奈は確信に満ちた
笑みを浮べる

う…それは…



ああ
いつもそうだ

瑠奈の自信たっぷりな
言葉にはなんだか妙な
説得力があつて 私はなにも
言い返せなくなつてしまう

私先生なのに
年上なのにつ

人生経験豊富な
はずなのに〜っ！



なに...?
この音

ぐんぐんぐんぐん

……わたしのお腹が
起きろと言っているわ……

そしてせんせいの愛で
お腹を満たせと〜

そんなに鳴る程
お腹が空いてるくせに……
強情なんだから！
……こうなったら――



瑠奈の好きな
ホットケーキも
作ってあげる

!?

ホットケーキ
ですって?!

びっくりと
瑠奈の体が動いた



私ったら
なんて甘いのかしら

でもホットケーキ一枚で
起きてくれるなら
安いものよね

そうしましょう?..ね?
メイプルシロッププーさんと
たくさんかけちゃうから

あ 特別に
ホイップクリームも
乗せちゃうのかしら

甘いモノの2連続で
瑠奈は思わず
ノドを鳴らした

…わわかったわ

なんとか成功ね


今朝の格闘も
長かったわ…



瑠奈と出逢って
1ヶ月とちよつと

もうずっとこんな調子で
振り回され続けている

彼女がうちに
泊まっているのも
これが初めてじゃない



瑠奈の保護者代わりに
なっている今は 半分
同棲しているといっても
過言じゃないと思う

保護者代わりじゃなくても
こうなっていたらような
気はするけど…



私の小さな
恋人なのだから

だって瑠奈は…



なんとか瑠奈に
起きてもらうことが
できたわ

毎朝 なんでこんなに
苦勞してるのかしら
わたし…



ホットケーキは
まだかしら

ナイフとフォークを持って
スタンバイ状態の瑠奈

さつきまでゴネてたのは
何だったのかしらね

とても
偉そうな言葉だけど
彼女なら許せてしまう

これから作るから
少し待っていてね

シロップはたっぷり
かけてちょうだい？
コップ一杯分くらい♪

ええっ！
あ、甘すぎない？

その甘いところが
いいんじゃない
わかってないわね



ででもっ
シロップ味しかしない
ホットケーキに
なっちやうわよ？

構わないわ

舌がバカに
なっちやうかも

ならないわ

自信満々だった



ホットケーキは
いつもそうなの？

シロップをかけない
ホットケーキなんて
ただの平べったくて
パサパサしたパンじゃない

でもね こうして
たつぷりメープルシロップを
かけてあげると…
ただのパンが途端に
素敵な食べ物になる

つまり…ホットケーキが
パサパサしてるのは
たつぷりシロップを
吸わせるためなのよ

瑠奈は断言した

とんでもない独自見解の
はずなのに なんだか事実
その通りな気がしてしまう

つて
ダメよ貴子！

いくらなんでも
こんなに一度に甘いモノを
食べさせるなんてダメダメ！

せせめて
半分にしなさい？

ダーメ
これは譲れないわ

体に悪そうよ？せめて
半分の半分にしてみない？

さっきより
減ってるじゃないっ



せんせいは私の
ささやかなお願いも
聞いてくれないんだ

やだやだシロップ
いっぱいかけるのー！

でも…

溜奈…



そそうじや
ないけど...

困ったわね...

私は瑠奈の担任なのよ?
それにあの人から瑠奈を
頼まれている責任もあるし

むっ



体にも悪そうだし
駄々をこねるのも
良くないと思うのよ

せんせいは
またそうやって…

ん？



せんせいはわたしの
保護者じゃなくて
恋人なのよ？

2人きりの時くらい
わがまま言っても
いいじゃない



それを言われてしまうと
言い返せないわ

学園では瑠奈なりに
気を遣ってくれている
気もするしね

私は先生
彼女は教え子

瑠奈はあの人の妹だから
どちらの立場が上なのか
わからなくなる事も
しばしばだけど…
そんな事は承知のはず

…そうであつて
欲しいわ

最近では学園でも
攻めの姿勢だから
不安だけど…

自分の言葉が少し
言い過ぎたんじゃないかと
私の顔をちらりと見る瑠奈



わかつたわ
小さな女王様

なぞなぞ

むうう
子供扱いしないで

拗ねた顔をする
瑠奈の髪をなでる





むう…
ちよつとだけよ?

はいはい

そう言わないで?
もうちよつとだけ♪

べ別に
気持ちよくなんて…
まあ悪くはないけど

どぶっ?..
気持ちいい?..

なびなび



いいんじゃないかしら？

ズグズグ

ほんと？ じゃあ
こんな感じは？



じゃあじゃあ
これはどうかな？

はう…ふいふ
あう…ふいふ

じゃあじゃあじゃあ
はいはいはいすると!?

はいはいはい
ふいふふいふ



思わず変な声
でちやつたじゃない!

…うて、うてー!!
なにアゴの下を
こちよ、こちよ
してんのよー!

可愛♡
ひんひん♡

もうっ
撫でるのもしませう！
いいわね？

あはは…っ
っっ



はい それじゃ
ホットケーキ作るから
少し待っていてね？

超特急で
作ってちょうだい

まだ眠いの
に
起こされた
だけでなく...

お腹は空いているし
恋人には保護者ぶられるので
不機嫌な溜奈

そんな彼女のために
小さなホットケーキを
いくつも焼く

いくつも重ねて
てっぺんにはバターを乗せ
その上から蜜を
とろりとかけていく

…わああ♪

仏頂面だった瑠奈の顔が
明るくなっていった

よっぽどシロップ味の
ホットケーキが好きなのね

シロップ…いっぱい…
生クリームも…
んふふふ♡

あ…

学園ではあんなに
高飛車で女王様の瑠奈が
よだれを垂らしてる

私の視線に気づいたのか
ふと我に返る彼女

こほん たかが
シロップや生クリーム
ごときで喜ぶほど
子供じゃないわよ

くすっ そうだね

ほほんと
なんだってばっ



そういう事に
しておくわ

くっ
不覚だったわ

大人だってシロップ好きな人は
いると思うから 瑠奈を
子供っぽいななんて思わないけど…
彼女はそう思っているのね

子供扱いされる事が
よっぽど嫌なんだわ

瑠奈のお望み通りの
ホットケーキを作り
ようやく朝食の時間になる

やっとホットケーキが
食べられるわ…はむっ♪

やっぱりこれよね〜
はむはむ♪ あ…指に
シロップがついちやったわ

ひとくち食べ
ふたくち食べ
満足顔の瑠奈

まあ…今 拭く物を
持つてくるわね？

せんせいが舐めて
キレイにして

ええっ？
そんな事…

瑠奈はそんな私を見て
指を差し出した



細い指に絡まった蜜が
先からぽたぽたと
落ちていく

テーブルが汚れちゃうわ
はやくはやく

せんせい
舐めて？

小悪魔的な瑠奈の笑みに
くらりと目眩がした…
可愛すぎて 瑠奈の指ぐと
食べてしまいたい

甘ったるい声に
目眩が激しくなる

もう瑠奈を
直視できないっ

そそんなえつちな事…
できないわよ

いつもはベシツドで
してくれてるじゃない



はっひっひっひっ!?

そうだけどー

まだ朝だし
食事中だし

ベッドでの事を
言われると許してー!
...と思っしてしまっ

瑠奈を見ると
誘うような
視線を送ってくる

あうう
無理

私…瑠奈に
逆らえないわ…

舐めてキレイに
してくれるわよね？



…わ
わかつたわ

ありがとう♪

そんなの当然よね
と言っているような目



無駄な抵抗を
してしまったわ…

どんなに足掻いても
最終的には
瑠奈に逆らえないのよ





席を立つと
シロツプのついた
瑠奈の指を口に含む

ちゅ……

んっ……

ちゅっ
ちゅっ

唇で優しく含んだ
瑠奈の指は 摘みたての
果実のように甘く感じた

シロツプを舌で
ゆっくり絡め取って行く



ちゅる…れる…

ふぁ…ん…♡

ん…

ちゅる…
ちゅる…

ん 甘…♡
…ん っ♡
こんなと…も
付いてる…♡

指の間にまで
入ってしまった
蜜を舐めると
瑠奈の指が震える

ちゅる♡



ああ…♡

どうしたの？

…べ別に

ちちゃんと隅々まで
キレイにしないと
解放してあげないから



はいはい

はいはい
じゃないのー

んっ...

ちゅっ
ちゅっ

少しだけ頬を
染めながら怒る瑠奈

彼女の指だけでなく
蜜が伝った
手のひらも舐めていく





ままだよ...今度は
せんせいの番ねっ♪

おっ...

んんん

ちゅび♡
ちゅ...れるうっ♡

そろそろ
綺麗になったんじや
ないかしら？

んんん

ん...



ふええ!?
溜奈あ〜



おたく♡

おたく♡

はぁはぁ♡♡

半泣きの私の胸を
ぎゅっと掴む

せんせいの胸は
相変わらず
大きいのね♡

そんな風に
揉んじゃ…
ダメ…あつ♡

おっ

おっ

んんん♡

はぁはぁ♡
♡

そんな風について…
こういう感じの事を
言っているの？

優しくすくい上げる
ように胸を揉む

柔らかく揉み込まれて
とても感じてしまう

おんっ♡

んっ♡

んっ…んっ♡
それ…

はぁはぁ♡
♡

せんせいって…
体のどこもかしこも
敏感なのよね♡

この辺りも感じるって
いうけど 乳首はもって
感じるんでしょっつ…

ち 乳首って…
あっ…♡

はぁはぁ♡
♡

おっ♡

おっ♡



優しく乳首を
摘むように触れてくる

焦らされるように
触れるか触れないかの
刺激を与えられると
身体がむずむず
してきちやう

もっと刺激が欲しくて
身体がくねる

あ…あつ♡
あ…んう…んっ♡
瑠奈…あん…♡
それ感じちやう

はぁはぁ♡
♡♡

おんっ♡

おんっ♡

ぼ防音が
しっかりしてるから…
どんなに声を出しても
聞こえないわよ

もっと
喘いじやいなむらこね♡
隣の部屋に
聞こえるくらいいね♪

ふうん…
イイコト
聞いちやった♪

あっ

はぁはぁ♡
♡

おん♡

ごん♡



胸を揉みながら
私の乳首に
吸い付いてくる

もっとせんせいを
感じさせちやいなさ♡♡♡

ええっ!?

ちゅっ♡

あんなっ♡♡ん...
あっ♡♡ん...♡♡ん

もみ
もみ

はぁはぁ♡♡

ちゅ…ちゅ♡
ちゅぢゅ…♡
ちゅねね♡

瑠奈ん…♡
うんっん…♡

ちゅっ♡

ほんと…どいも
敏感なんだから♪

そんなことないわよ…
はあ…あっ♡

はあ♡
はあ♡

もみ
もみ



認めるのが
恥ずかしいの？
とつてもいい事なのよ♡

いい事して...

ちゅっ♡

んは...
あああ...♡

ほらもっど
感じちやいなわくら...
ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡
んちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡

はぁはぁ♡
♡♡♡

もみ
もみ



ふうん やつぱり
乳首が一番いいみたいね？
せんせいのごと 胸だけで
イカせてあげる♡

れる れるれる…
んぢゅう♡

そんなこと…
んつく♡
う…んんうっ♡

ちゅっ♡

…こんなにおっぱいが
大きいなら ミルクが
出ればいいの♡

出るわけないじゃない
…あつ♡ ああんっ♡

はぁ♡ はぁ♡

もみ

もみ

やつぱり「こ」が
好きなのね…いっぱい
苛めてあげるわ♡
ちゅぱっ♡

んああっ！あ…
あっだめえ♡

ちゅっ♡

あっあ…んっ♡
瑠奈…あっあっ♡

もみ

もみ

あまりに
感じる場所ばかりを
せめられるものだから
勝手に腰が浮いちやう

はぁはぁ♡
はぁ♡



なんてイヤらしい
身体なの？

ステキよせんせい…♡
ちゅんちゅん♡
ちゅるる♡

ちゅん

ふあっ!?! あ…
ああっ♡♡♡

もみ
もみ

太股を擦り合わせる
ようにモジモジする
頭が熱くなって…
どうにかなってしまいそう

ん…はあ♡あ…あ
瑠奈…ダメえ♡

はあはあ♡
♡

ダメな事なんて
何もないわ

でも…ごんなの
身体がガクガク
してきちやうし…
んん…♡♡♡

ちゅっふ

もみ

もみ

せんせいの胸が
ふやけちやうく
弄ってあげる♡

やっあ…
ああ…♡

はぁはぁ♡
♡♡

ちゅっ

どして...
笑うの...?

ちゅっ

もみ

もみ

せんせいが可愛いからよ
せんせいが嫌がるほど
攻めたくなくなっちゃうの♡

ええっ?

はぁはぁ♡
♡

こういつとじろは
ねえさまに
似てるのかも

そんなところ…
似なくてもいいのよ

ちゅっ

もみ

もみ

ほんとに攻められたい
クセに…ちゅる♡
ちゅ…ちゅ
んちゅるる♡

あ…あ♡
そんなに強く
吸っちゃうダメえ♡

はぁはぁ♡
♡

でもすげえく
感じちやう

これはその…あれよ
相手が瑠奈だからよ？
誰でもって…
わけじゃないのよ？

…他に経験がないから
多分としか
言えないけど…

んあう…う…ん♡
く…う 瑠奈の舌が…
乳首を転がしてるう
ああ♡

はあはあ♡
♡

ちゅっ♡

もみ

もみ

ふふ
自覚はあるのね?
ちゅちゅ♡

せんせいの乳首
すっごく固く
なってるわよ?

やああんそれは
言わないでええ

はぁはぁ♡♡

もみ
もみ

ちゅちゅ



嬉しそうに
乳首を責め続ける

そうしながら
私の左右の胸を
擦り合わせるように
揉みしだく瑠奈

おっぱいがもみくちやに
されているみたいで
すごく恥ずかしい

やっぱり
恥ずかしいわ
瑠奈っ

もみ

もみ

もみ

はぁはぁ♡♡

だーめ♡こんなところで
許してあげないんだから

溜奈って私より
ずっと年下よね？
なのにどうして
私より年上っぽいのお

というか…
私が子供っぽいの？

昔から童顔だとは
言われ続けていたけど
これでも先生だし…って…

もみ

もみ

もみ

はぁ♡はぁ♡

ほ 瑠奈んっ
ダメ…あつ

んああ あ…
先端は弱いのっ
弄つちやダメ…
ん♡ ああんっ♡

いつでも
イツちやいなさい♡

わたしが
じっくり見えて
あげるから♪

ごま

やつ あつ ああ♡ あつ♡
胸だけでイツちやう…
ああんっ♡ あ…あつ♡

もみ
もみ

はあ♡ はあ♡

あ…んあつ♡
ああ…はああ♡
ああっ 濡れちやうつ♡

ちゅぱれろ…
れるう…ちゅっ♡
ぢゆるるっ せんせい…♡
んちゅ ちゅうつ♡

あつダメえ♡もじ…
限界っ♡ 瑠奈…
あつ♡ やああっ♡

瑠奈に見られてるのに
イツちやうつ♡
ああっ おっぱいで
イツちやうつ♡

はあはあ♡

もみ

もみ

もみ

ああああっ♡

あ♡
あ♡
あ♡
あ♡

びんびん

びんびん

恥ずかしいくらいに
続けてビクビクと
身体が動く

あ…あつ♡
あ…♡

あ♡
あ♡
あ♡
あ♡

びく
びく

一気にびくんと
体が跳ねた

もうイツちやうなんて...
せんせい はやーい

そんなこと...
言われ たうて...
はあん♡

もうちよつと
我慢してからの方が
ずっと気持ちいいのに

でも
我慢できなくて...

はあん♡

はあん♡

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

未だ絶頂の余韻に
ヒクヒクする私… 瑠奈は
そんな私を見て頭を撫でる

可愛かったわよ♡

それ 年下の瑠奈が
言う言葉なのかしら

ふうふう…
ぐったり…

はぁ♡

はぁ♡

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐったり!? それは
責め甲斐が
あつて結構ね

…ふんふん?!

つまりもつとせんせいを
気持ちよくさせちやおう
つて事よ♡

ええええええ!!?

♡あ♡

♡あ♡

ブルブル

ブルブル

ブルブル

ブルブル



びしょ

びしょ

んんん

んんん

力の入らない私の体を
ベッドに沈めると
両脚を持って
そのまま恥ずかしい
格好をさせられた

ひあんっ

んやあっ

ぽんっ

しかも
するするとシヨーツを
剥がされてしまう

ぐっ

ぐっ



ちちよつと待つて!?
これはさすがに
恥ずかしいすぎるからあつ

恥ずかしい方が
せんせいは
燃えるでしょ?

そんなこと...んん♡
恥ずかしいすぎるわ♡

せんせいの
恥ずかしいところが
丸見えだわ♡

あ...あ

あ...♡

どっ

どっ

嬉しそうに
言わないでえ

嫌なの？ おまんこから
いやらしい蜜が
こんなに溢れてるのに♡

いやあああ
言っちゃだめええ

言われた方が
いっぱい
濡れるくせに♡

おまんこ♡

おまんこ♡

どっ

どっ

や
やああ…

抵抗を試みるも
体が言う事を聞かない

瑠奈にこんな格好を
させられている
せいもあるけれど…

せんせいのおまんこ…
ヒクヒクしてる♡
さっきの余韻が
残ってるのね

あ…あ

あ…♡

どっ

どっ

み見ないで...

見ないで欲しいの？
じやあいつぱい
見ちやう♡

瑠奈の
イジワルう...

よがる顔もいいわね
いただきまーす♡
れろ...ちゅぱっ♡
ちゅ...ちゅるるっ♡

あ...あ

あ...あ♡

どっ

どっ

ああ…あつ
ん…んうう…♡

瑠奈が私のおまんこを
舌で舐める

んっ…

んっ

んっ

柔らかでヌメヌメ動く舌は
別の生き物みたいだった

んあつ あ…
んう う…身体が
敏感になつてるう

瑠奈の舌が
んっ♡すごく…あつ♡
あ…気持ちいい♡
なぞつてるのお あん♡

んっ…

んっ♡

んっ♡

せんせいのお汁
洪水みたい…♡
いっぱい溢れてくるわ♡

ちゆるる♡ちゅ…んう
ちゅぱ…れる…♡
敏感すぎるのも
大変ね…ちゅっ♡

あううんっ♡
はああ…ああ
体に力が入らないいい

それだけ
気持ちいいって
ことね…♡れろっ♡

んっ…

んっ

んっ

ひあうんっ
ん…あああ♡

瑠奈の唾液を
含ませた舌先が
クリトリスを舐め回し
私をとろけさせる

ちゅ ちゅ…♡
ここを刺激されるの
好きでししょう？
ぺろ…ぴちや…♡

や…あ…あ…あ♡
そこは感じちやう♡
瑠奈…あ…あ♡

そんなにグリグリ
しないでえ…あ♡

せんせえ お尻の穴まで
ヒクヒクしてるわよ？
そんなに
気持ちいいんだあ♡

んっ…

んっ

んっ

思わず本音を
言っちゃったでも…
もう止まらないの♡

ああ…ひうんっ
ん…んっ♡いっいっ…♡

んっ…

んっ
んっ

んっ

瑠奈♡やだ…
気持ちよすぎいで
壊れちゃいそうっ♡

ちゅちゅ…♡
何が壊れちゃうの？

私の全部が
おかしくなっちゃおう…
あああ♡ゆるして…
ん♡ん♡♡

どう許して
欲しいの？

もう…感じ過ぎなっちゃおう
おかしく…なっちゃおう…
ああ♡♡あんな♡
ゆるして♡

こんなところで
やめちやうの？… 本当は
やめちやうして…この…の…？

びん

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

びん

びん

びん

じゅじゅ...

せんせい
今日は1日中...
欲求不満気味に
なっちゃやうわよう?

わたしに
どうして欲しいの??

瑠奈の冷たく蔑むような
視線にゾクゾクして...
もつと濡れちやう

たろろろ
たろろろ
たろろろ

最後まで…
して…??

もっと具体的に

はい
よく言えました♪

さ最後まで…
瑠奈に愛して
欲しいのお…

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

びく

びく

びく

びく

ふふっ♡
ちゅっ♡

じゅっ……

嬉しそうに
私が一番感じる場所を
舌でなぞってくる

私の蜜と彼女の
唾液が絡まり
くちゅくちゅと
音を立てている

んっ……

んっ

んっ

んっ♡
んっ♡
んっ♡

んう♡ん…
はあん…んっ♡

せんせいの
クリトリスつて
可愛いわよね…♡

ほんのり染まった
ピンク色で 綺麗で
感じやすいし♡

感じるのよ♡
するのよ…♡ちゅるん♡
ちゅ…んっ♡ちゅるん♡

そんな唇の優しい刺激でも
それを何度も続けられると
大きな快感へと変わっていく

んっ…

んっ…

んっ…

んっ…

んうう♡うう…ん♡
あ…ああん…ん♡
瑠奈…♡
あはあ…ん♡

ちゆくちゆ…♡
ちゆりゆ…んはあ
見て…糸ひいてる…♡

やああ…

せんせいの愛液が
濃いから…こんな風
になつちやうのよ？

んっ…

んん

んん

んん♡
んん♡
んん♡

んうん♡か…
感じ過ぎるさやうしうし
ああ♡♡

んああ♡♡ イキそお…
さつきイッた
ばっかりなのがいい

ぎゅじゅと
シーツを掴む

体は瑠奈からの刺激で
完全に情熱の塊に
なってしまうていた

んっ…

んんん

んん

んんん
んんん
んんん

んちゆる…んちゆる…れろっ♡

激しい彼女の施しに
限界がやってくる

んん…っ♡
ん…あっ♡
ももうダメ…
だめだめいっ♡

ああっ♡だめ…
いっ♡いっ♡いっ♡

んんん♡
んんん♡
んんん♡

んんん

んんん

んんん

びしょ

んが

ああ…ん♡
あ…あ…やああ♡

ふう♡
潮吹いちやうなんて…
せんせいのがっち♡

あめあめ
は

びしょ

びしょ

びしょ

しゅわん

シーツ…よがれ
ちやつて…♡

いめんなさい
いめんなさい…

ぶしゅつと
また潮を吹く

ぴんぐわん

何を謝るの？
気持ちよくなつて
くれたんだから
いこのよ♡

びしょ

びしょ

ああもう
恥ずかしい…

すごく気持ちよかった
事を知られるのは…
まだ恥ずかしい

でも 瑠奈なら…
全てを受け止めてくれる
気がするから♡

はぁ♡

はぁ♡

びんぽ

びんぽ

ふんふん

びんぽ

びんぽ

びんぽ

びんぽ

洗うのはせんせいだもの
わたしは気にしないわ

そそうだったわね…

でもまだ
洗う必要はないわよ

えっ？

はぁ♡

はぁ♡

ぷんぷん

びんびん

びんびん

びんびん

びんびん


びんびん

びんびん





はっ!?
ううん...



ああれ？
なんで日が暮れてるの？

え？
貴重な社会人の休日は
どこへ行ってしまったの？

もしかして私
本当に1日中溜奈と…



あわわわわ

掃除は？洗濯は？
お買い物もする
予定だったのに……

明日の授業の準備も
してないじゃない！

……
どういふよ

準備だけは絶対に
欠かせないのに 瑠奈と
エッチニ昧だったなんて
どう言い訳すればいいのよー

他の先生に比べれば
私なんてまだまだ
新米教師…

今私の体に
戦慄が走ったわ

ひーっ？！

ま
ま
ず
は
服
を
着
よ
う

落
ち
着
い
て
私

朝
ま
で
に
は
ま
だ
時
間
が
あ
る
わ

睡
眠
時
間
を
削
れ
ば
間
に
合
う
は
ず

落ち込むわー

今日は色々する
予定だったのに…
はああ

…はず！

はず？



たじろ...

たろ



隣ですやすやす
眠る瑠奈

よっぽど
疲れちやったのね

だるま...

瑠奈...

んん...

だるま

ねえさあ...

だま...

だま...

甘えた声で きゅって
抱きつこうとする

きつとあの人の
夢を見ているんだわ

最近 逢ってないものね...
夢で逢えて良かったわね



瑠奈
嬉しそう

んんんんん...

たはは...

たはは

えへへ...

瑠奈を見ていると
まあいいかって
思えてくる

何もできなかつたけど
瑠奈と一緒に過ごせたもの

こんな贅沢
休日じゃなければ
できないわ

瑠奈が
起きたときのために
夕食の準備をしよう

あ
あれ？

が
しゃ
ぐ

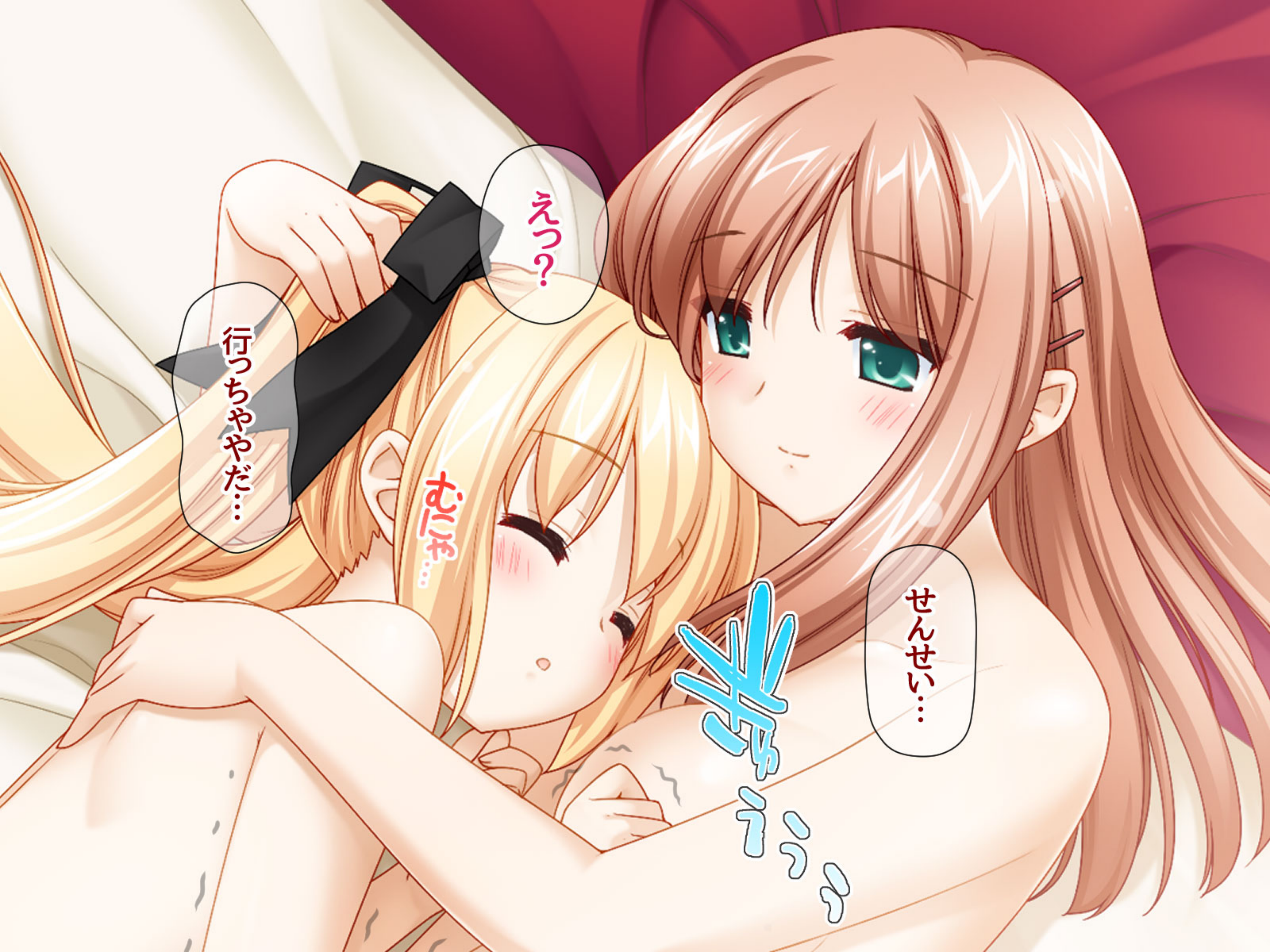
起こさないように
そつと体を動かす

溜奈
ちよつとごめんね

あなたはそんなに
あの人と一緒に
いたかったのね

思った以上にしっかりと
抱きつかれてるみたい

瑠奈の手が
私の体から離れない



行っちゃやだ...

えっ??

おは...おは...

せんせい...

おは...おは...

る 瑠奈
起きてたの？

おん
おん
おん

おん
おん

…で
…行かないで…

え…



よしよしおこもぢゅいとし
強くしがみつくとっくゎ

おた
ぱ
ぱ

私はどいにも
行かないのに

まじか...

甘えん坊さんね

どこにも行かないわ
ずっと側にいるから

ふあ…せんせいだ
抱っついてる

まいば…

瑠奈の腕を
優しくほどこき
彼女を抱っこする

おん
ぱん
ぱん

どんな
気分かしら？

わわかんない

おん
ん
ん

きゅんきゅん
抱きしめてみる

どうしちゃった
のかしら

おんおん...

…せんせいは
ずっと側に
いてくれるのよね？

私はミカ女の教師だもの
仕事を辞めない限り
ここにいますし…
瑠奈の担任でいるわ

おん
おん
おん

うん…

おん…

なんだか瑠奈が
年相応の女の子に
戻ったみたい

昼間の瑠奈とは
大違いね

まふ

ふん...

す...す...す...

あらら
また寝ちやった

可愛♡
す...す...

もう…いっつもいっつも
無茶苦茶で私のこと
振り回してばかりで…

とは言いつつも
瑠奈に甘えられるのは
嫌いじゃない

彼女の体重さえも
心地よく感じられる

ほんと…昼間とは
まったく違うわ

学園でも
こんなところは
見せないもの

瑠奈は友達の前では
もちろんの事
他の先生方にも
女王様的な態度を崩さない

それが彼女の根っこの
部分の性格だから
崩しようがない

でも私の前だけは
違う顔を見せてくれる

そんな姿を瑠奈が
見せてくれる
ようになったのは
いつからだったかしら

すっ...
すっ...

それは女の子の
一番可愛らしい部分で
特別な人以外には
見せたくない姿

おめ、

せんせい
あったかい...

胸に瑠奈の
ぬくもりを感じる

起きてるのかと思ったけど
眠ってらるのようにも見える

んんん...

んんん...

瑠奈も
あったかいわよ

えへへ...

可愛い...

ふわりと甘い香りが
鼻孔をくすすべり
そして思ひ出す

ぽん
ぽん...

ぽん
ぽん...

瑠奈がこんな姿を
見せてくれる
ようになったのは
あのときからだ――

きやあああ
あああ♡

まじ

んんん

途端に教室にいた
学生たちから
悲鳴のような
黄色い声があがった

その花びらにくちづけを
あまくてほしくてとるけるちゅう



ん...ん...

あ...

あやっ...

その花びらにくちづけを
あまくてほしくてとるけるちゅう



んん…♡

あ…あ…

あん…熱くて
ぬるぬるしてる

ぐわ

ちゅ…

せんせい
もっと近くな…

い…い…

その花びらにくちづけを
あまくてほしくてとるけるちゅう

自分で
揉んだとか？

そそんなこと...
しないわよお

...そうよねせんせいは
ひとりでした経験も
ないみたいだし

ひとりで
何をするの？

はぁ♡
はぁ♡

んんん

んんん

むは

むは

ふぐり屋



基本画像21枚+立ち絵4体
差分を含め 総CG枚数1156枚

原画:ぺこ
シナリオ:佐野晋一郎

その花びらにくちづけを

あまくてほしくてとるけるちゅう

コミック版